

第30回宇宙安全保障部会 議事録

1. 日時

平成30年11月12日（月） 13:00～14:00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

青木部会長、片岡部会長代理、折木委員、久保委員、白坂委員、中須賀委員、名和委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、山口参事官、須藤参事官、高倉参事官、森参事官、滝澤参事官、津井企画官

(3) 関係省庁等

内閣官房 国家安全保障局 伊藤内閣審議官
外務省 総合外交政策局 宇宙室 山口室長
防衛省 防衛政策局 戦略企画課 五味課長

4. 議事要旨

(1) 宇宙基本計画工程表改訂について

資料に基づき、事務局から説明があった。委員から以下の意見があった。

(以下、○意見等、●事務局からの回答)

○情報収集衛星の光学衛星等について、36年度から37年度に遅れた理由は？（青木部会長）

●技術の実現可能性という点で、後ろにずらさざるを得ないという意見があがった。（山口参事官）

○地上設備の技術的な部分が工程表に表れていない。（折木委員）

●工程表に記載のある宇宙システムは、衛星と地上局の両方を包含している。宇宙システム全体の機能保証として地上局を記載すべきか、それとも、それぞれの衛星システムの中で地上局を記載すべきか。（高田宇宙事務局長）

○機能保証だけの問題ではないと考える。（折木委員）

○地上局というハードウェアよりは、データを、解析・統合することによって、どのようなものにつなげていくかという、ソフトウェアに近い部分の整備が必要。その一環として地上局のどのようなアセットが必要かが議論的になってくる。そのような枠組みは確かに一つ入れておいてもいいのかもしれない。（中須賀委員）

○工程表に新しい項目をつくることも可能か。（青木部会長）

●これまで必要に応じ、工程表「53. その他」の中に項目を立てた例はある。今後、宇宙基本計画や、工程表の構成全体を見直す際、必要な項目の設定について検討したい。（高田宇宙事務局長）

○「ミッションアシュアランス」の日本語としての表現は「任務保証」から「機能保証」に変わって落ちついているが、諸外国とのやりとりの中で「機能保証」という言葉と英語の「ミッションアシュアランス」という言葉で齟齬はなかったか？たしか、訳語

を変えた当時のNISCが「機能保証」に変えようとしたので合わせたというところが議事録に残っていたと記憶している。一方、今のNISCは「任務保証」を採用しており、「機能保証」という言葉は消えている。(名和委員)

●整理して、また関係府省で協議したい。(高田宇宙事務局長)

○最近、「ミッションエンジニアリング」という言葉が一般的になってきている。一つのシステムをしっかりとつくっても、そこには必ず脆弱性があるので、トータルでミッションをどう考えていくかというほうに重きが移ってきている。「ミッション」という言葉で統一することも考えられると思う。(白坂委員)

○同盟国と共同で、抗たん性を強化するということが重要。引き続き検討いただきたい。(片岡部会長代理)

(2) 静止リモートセンシング技術について

資料に基づき、中須賀委員より説明があった。委員から以下の意見があった。

(以下、○意見等、●中須賀委員の回答)

○精密な制御をどのように実現するのか。(高田宇宙事務局長)

●センサが最も重要である。ナノメートルクラスで距離の変動を調べられる距離センサがあり、これをうまく活用することで実現する。(中須賀委員)

○中長期的なタイムラインはどのように考えているか。(山口参事官)

●実験衛星を3、4年以内に打ち上げたい。7機は無理でも3機ぐらいのフォーメーションをやりたい。予算次第。(中須賀委員)

○予算規模は？(白坂委員)

●5億円×衛星数ぐらい。(中須賀委員)

○オーストラリアとの協力は、資金面か。(久保委員)

●資金は双方で捻出できれば良いと考えている。オーストラリアは、衛星などの宇宙アセットを保有していないので、教育も兼ねて衛星を共に開発をしようと呼びかけている。(中須賀委員)

○アメリカや中国はこのような技術には取り組んでいないのか？(久保委員)

●独自のアイデアであり、他国はやっていない。国内でも予算措置を進めていきたい。(中須賀委員)

以上